談話資料

○金ちやんとお魚

松田清

金ちやんは七つで、お父様がありません。お母さんと、姉さんは、他家のお洗濯をして、お金をいたゞいて、くらしています。今日も二人は水のたくさん流れる川にいつて、よごれた、着物をヂャブ〳〵洗つています。

金ちやんは、そのそばで、美しい石を拾つたり、砂の中から、出てくる蟹をつかまへたり、唱歌をうたひながら、遊んで居りました。そしてだん〳〵川下の方にあるいて行きました。すると、そこの草の上に腰を下して魚を釣つてるおぢさんがあります。長い竿の先に、糸をつけてその糸には鈎がついています。その鈎にお魚のよろこぶミミヅをつけて、水の中にいれてをきますと、やがてウキと云ふものが、プク〳〵とうごきます。それは

お魚がそのミミヅをくはへて食べやうと引ぱる時なのです。おぢさんは占めたとその竿を引きますと、糸の先に、お魚がピラ〳〵とついてきます。おぢさんはそのお魚をとつて、わきのかごに入れて、また鈎のさきにミミヅをつけてまた水の中になげ入れます、やがてまた、ウキがプク〳〵と、うごきます。おぢさんが竿を引いて、ピラ〳〵と上に上るお魚を鈎からとつてかごに入れますどうも面白いこと〳〵。金ちやんは、何もかも、忘れて見ていますと、またウキがプク〳〵、お魚がピラ〳〵、またウキがプク〳〵、お魚がピラ〳〵、おぢさんは、お魚をかごに入れてはまたつり、つつてはかごに入れ、金ちやんの見ているまに、そのかごが一つぱいになりました。

おぢさんは、ニコ〳〵、よろこび顔でそのかごを下げて、釣竿を、かついて、歸つて、ゆきました。そのあとで、魚かごのあつたそばの草の上に、大きな美しい、お魚がピン〳〵はねて居るのを、金

ちやんが見つけました。

金「あゝこれは、あのおぢさんが、釣つたのを落として入らしつたのだ、そう、これから後をおつかけて、持つていつて、上げませう。」

金ちやんは、そのお魚を手にぶらさげて、一生懸命にかけだしました。おぢさんは、もうたいへん遠くまで、行つてしまいましたが、金ちやんがかけてゆきましたからとうとうおいつきました。ハア〳〵いきをきりながら

金「おぢさん貴下のお魚を僕が持つてきて上げましたよ。」おぢさんはおどろいてふりむきましたがニコ〳〵笑ひながら、

お「これはよい子だ、ごほーびに、それもまた、もう一尾、別に、上げよう」

といつて、かごの中から外に一つだして、お魚二つを金ちやんに下さいました。金ちやんは、お禮をいつて、兩方の手に、その魚をさげて、うちに歸りました。

うちでは、お母さんと姉さんと丁度川からたくさんの洗濯ものを、かごにかゝへて、歸つてきて、お夕飯の、お仕度のところでした。

金ちやんのお魚は、すぐ煮て、三人て、おいしいお夕飯を、いたゞきました。（終り。）

○お山の火事

松田清

お山のなかに、只一軒、うちがあつて、きこりが住んでいました。そこには、太郎さんと、お花ちやん、のまだ小さい、二人の子が、ありました。

ある日、その子供の、お父さんと、お母さんは町に御用があつて、出てゆきました。

お日樣が西にかくれて、だん〳〵夜になりましたが、そのお父さんとお母さんはなか〳〵お歸りになりません。太郎さん、お花ちやんはお床に入つて、ねて終ひました。やがてゴー〳〵バリ〳〵と、妙な音がしますから、太郎さんは、おどろいて、